資料編

博学連携ワークショップ

学校と博物館が学びあえる場の構築をめざして

学校の、もっと学校が利用しやすい博物館であってほしいという気持ち。
博物館の、もっと博物館を学校に利用してほしいという気持ち。
学校と博物館がともに、学び合える場を目指すワークショップです。

日時 **2011年2月20日（日）10:00 ～ 19:00** ★要申込・参加費無料

場所 国立民族学博物館 本館２F 第５セミナー室、本館展示場
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10 番 1 号

対象 博学連携に関心のある学校教員、博物館職員、その他関心のある方

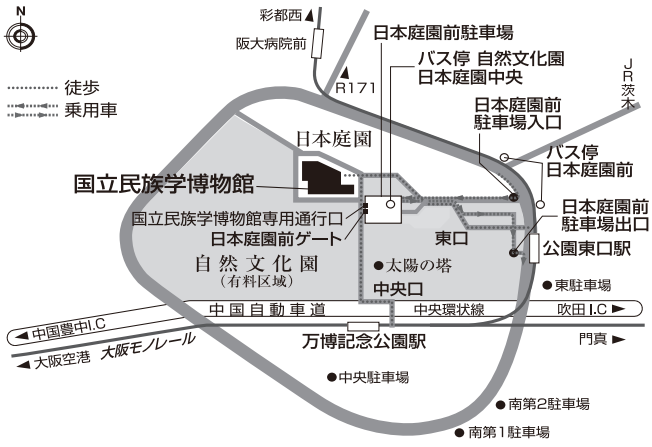
定員 50 名

主催 国立民族学博物館 文化資源研究センター

後援 吹田市教育委員会
日本ミュージアム・マネージメント学会
全日本博物館学会
日本国際理解教育学会

学校と博物館、
両方にとっての
「いいこと」から生まれる、
子どもたちの博物館での
「学び」について、
一緒に考えてみませんか？

国立民族学博物館へのアクセス



＜交通案内＞■大阪・千里万博記念公園内●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車 徒歩約 15 分●阪急茨木市駅・ＪＲ茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約 15 分（茨木方面から、自然文化園・日本庭園中央経由のバスが 1 時間に 1 本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。）●自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料) から徒歩約 5 分●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。「日本庭園前駐車場」を利用されるかたは、「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。

＜プログラム＞

受付	10:00～10:15
挨拶・趣旨説明・各班内自己紹介	10:15～10:45
事例紹介（※1）	10:45～11:15
ワークショップ（※2）の説明	11:15～11:30
昼食・館内見学・ワークショップなど	11:30～15:30
各班ワークショップ成果発表会	15:30～16:10
講演（※3）	16:10～17:00
ワークショップ講評（学校・博物館関係者）	17:00～17:20
情報交換会（懇親会）	17:30～19:00

※プログラムの内容は変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。

※1　事例紹介：学校と博物館が連携した事例を紹介します。学校の先生及び、博物館関係者に発表いただきます。

※2　ワークショップ：学校の先生や博物館職員などで班を作り、テーマに添って授業プランを考えます。班編成は参加申込書で選んでいただいたテーマの希望を考慮します。

※3　講演：文部科学省　生涯学習政策局　政策課長の上月正博氏にお願いする予定です。学校と博物館について、地域連携など生涯学習の観点から、お話しいただきます。

＜参加について＞

- 参加費：無料／定員：50 名（先着順）
- 参加には申込が必要です。メール・FAX・郵便にて受け付けます。
  FAX または郵便にて申込の場合は、別紙の申込書を記入の上、お送りください。
  メールでの申込は、別紙の申込書の各項目をメール本文に入れてください。
- 参加申込〆切：2011 年1月 31 日（月）必着。なお、こちらからの返信をもって受付完了とさせていただきます。もし2月4日（金）までに返信がない場合はお問い合わせください。
- 駐車料金は有料です。乗用車 1,200 円（最寄りの駐車場は日本庭園前駐車場です。入庫は 9 時から 16 時 30 分まで、出庫は 18 時まで。）
- 昼食は各自ご用意ください。館内にレストランがありますので、そちらもご利用いただけます。
- 当日の博物館見学は無料です。
- 館内での写真撮影は可能です（三脚の利用不可）。
- 情報交換会（懇親会）に出席される方は別途実費（参加費 1500 円）が必要です。当日受付にて徴収いたします。

参加申し込み及び問い合わせ先：
国立民族学博物館 文化資源研究センター　五月女賢司研究室
〒565-8511　大阪府吹田市千里万博公園 10 番 1 号
FAX：06-6878-7503　　E-mail：ksaotome@idc.minpaku.ac.jp

＜そのほか＞

- 資料・パンフレットコーナーを設けます。2 月 14 日（月）までに上記の問い合わせ先までお送りください（着払い不可）。残部の返送はいたしません。
- 宿泊の手配、交通経路などは各人でお調べの上、確認をお願いします。

申込日：　　年　　月　　日

国立民族学博物館　文化資源研究センター　五月女賢司研究室 行

博学連携ワークショップ　参加申込書

（ふりがな） 名前	（　　）
所属 （施設名／学校名）	
連絡先 （TEL/FAX/E-mail）	TEL:　　FAX: E-mail：
専門分野 （教科／担当学年など）	
ワークショップで 興味のあるテーマ （第３希望まで）	・骨　・住まい　・数　・水　・乗り物　・糸 ・顔　・食　・色　・扉　・葉　・魚 ・幸せ　・体　・点字 第１希望（　　）　第２希望（　　）　第３希望（　　）
情報交換会への出席 （参加費：1,500 円）	参加　・　不参加
本会参加者の名簿作成への 協力の可否 （名前・所属・連絡先）	協力する　・　協力しない （参加者名簿は、当日参加者全員に配付します）
参加者や担当者による調査・研究・広報・個人利用の目的のための、写真やビデオ撮影・音源の録音およびその利用の許諾について	許諾する　・　許諾しない

参加申し込み〆切り
2011 年 1 月 31 日（月）
こちらからの返信をもって
受付完了とさせていただきます。

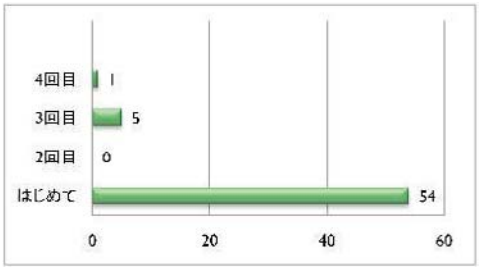
参加申し込み及びお問い合わせ先：
国立民族学博物館　文化資源研究センター　五月女賢司研究室
〒565-8511　大阪府吹田市千里万博公園 10 番 1 号
FAX：06-6878-7503　　E-mail：ksaotome@idc.minpaku.ac.jp

※ この参加申込書に記載いただいた個人情報（名前、所属、連絡先、専門分野）は、上述の目的にのみ使用し、それ以外の目的には使用しません。

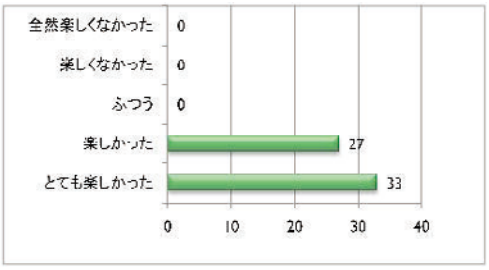
アンケート集計結果

対象者：　71名（対象者は、ワークショップ参加者と準備グループメンバー（館外協力者）のみ）
回収枚数　60枚
回収率　85%

① この博学連携ワークショップ（ミュージアム・ティーチャー・ワークショップ）に参加するのは何回目ですか？（第1回：琵琶湖博物館、第2回：いのちのたび博物館、第3回：船の科学館、第4回：国立民族学博物館）



② このワークショップに参加して楽しかったですか？

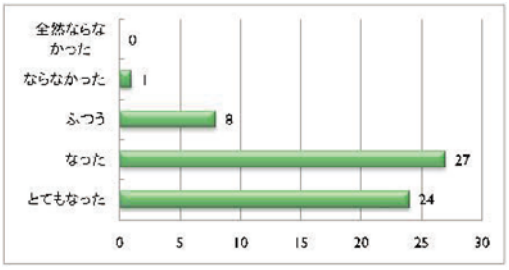


●「とても楽しかった」と回答した人の理由
- 一定の時間をかけて、テーマと展示を考えながら、ワークショップ案作りができた。
- 色のグループでしたが、波長があったのか、昼食時点でどんどん言葉が出てつながっていった。
- 民博の資料・展示そのものがよかった。それらにもとづいて班でディスカッションができたので。
- 色々な立場の人が、博学連携というテーマに沿って話し合い、実践的なアイデアを多く得ることができた。
- テーマについて班のメンバーといろいろイメージを広げて話し合ったり、題材を探したり、博物館をかけめぐった。
- それぞれの専門分野で深い知識をお持ちの学芸員の方々とたくさん交流できたのがとても良かったです。
- 博物館の展示の見方にも様々な見方があり、意

●「楽しかった」と回答した人の理由
- 民博の展示を必死になって見る機会となった。また、班別にて交流をしながらの展示見学。学校の先生の子供の学習を基盤とした指導構成づくりのステップを少しだけ感じ取ることができた。
- 授業で使える方法を考えながら博物館の中をウロウロするのは今までにない新しい感覚でした。
- 最初まとまるのか不安でもあったがなんとかまとまった。
- 実習で点字について学べたから。
- 博物館学芸員の方々と学校現場の先生方の熱い思い（連携にむけての）が、感じられた。小さい施設である当センターに生かせるWSの結果を取り入れることのできる要素を実施していけると感じた。
- 立場の異なる方々との協同作業が勉強になりました。

見も多様、活用の仕方も多様だったところ。
- 日頃の自分の実践で関わりをもてない館（種）の方と交流ができた。
- 実例報告を聞くだけでなく、実践ワークショップを行うことでより実践に近いものを学ぶことができました。
- 様々な分野の人々が、集まって知恵を出し合う体験ができたから。
- 博物館と学校との連携を考えるにあたり大変参考になった。
- 色々な学校の先生方と意見交換できた。
- 学校の先生や他館の学芸員の方がみんぱくの展示をどのように見ておられるかが分かってとてもよかった。
- いろいろな立場の人たちと知り合えたから。
- 初めて会う人と協力する体験そのものが楽しい。
- 他の博物館や学校現場の人と直接交流し議論することができたため。
- 色々な職種の人と交流して、作品（？）を作ることができた。
- 様々な専門分野、職業の方と一つのテーマからプログラムを考えることで多様な視点、アプローチ方法を話すことができた。
- 多彩な内容が、短時間にうまく入り満足度があった。
- 分野、職種をこえての会であることに意味を感じました。
- 点字について新しい発見があった。
- 若い参加者の次から次へと出てくるフレッシュな意見に圧倒されました。
- 違う立場の意見を聞けたことや、博物館内を見学していく間も、専門的な解説を伺うことができたりと、とても充実したものでした。
- 様々な意見、考え方が聞けて、プラスになる事が多かった。
- ふだんは自分の専門の事しか知らなかったので、様々な分野の方とワークショップができて、勉強にもなり、これからに生かせそうだったから。
- でも、フィードバックが足りずもったいなかった。
- ただ講義を受けているだけでなく、同じグループの方たちとたくさんお話ができてよかったです。
- 2時間半でネタを考え、発表をするのは非常に難しく思えたが、意外にできたし、頭を寄せ合って考えるのは面白かった。
- 博学連携に前向きな人々と協業ができて、自然史系でない博物館が新鮮だった。
- 事例発表で博資料の活用方法、学習の目標設定などについて具体的に知ることができた。またワークショップでは、様々な立場の視点や考え方にふれる機会があった。
- たくさんの人の考え方を知ったり、自分の考えを伝えれたりして楽しかったし、自信にもなった。
- 新しい出会いがあり、新鮮だった。
- 色々な立場の方の色々な役割や考え方に触れられたため。
- 様々な普段会えない分野の人と交流することができた。自分の知らない分野にもいろいろな博物館や展示館があるのを知った。
- グループで様々な意見が出てきても、どんどんテーマがまとまっていく様がワクワクして楽しかったです。各グループがテーマを持っていて、そこから色々な授業のテーマを見つけていく、博物館の活用の仕方がいろいろ見れたので参加して良かったです。
- 班のテーマに関連したものを展示室で見つけるのがなかなか難しかったです（広いで！）組み立ても苦労しましたが楽しかったです。
- 立場の違う人との交流ができた。
- 他県、他分野の方々と交流がとれて楽しかった。

③ 学校と博物館、地域社会の関係について考えるきっかけになりましたか？



●「とてもなった」と回答した人の理由
- 通常の研修では学芸員だけで集まることが多いので、学校の先生やボランティアの方もおられたのでワークショップについて違う面からも考えることができた。
- ワークショップをする中で、自分が入館（初）した生徒の気分になり館の展示を見る視点を考えることができた。
- たくさんの方々が集まってらして、色々な話が

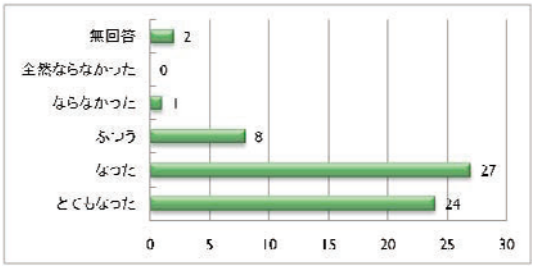
●「なった」と回答した人の理由
- 具体的な方法は見つからないが教える方向性を与えられた。
- 参加者名簿を今回のように配布していただいたことが、とても有意義だと思います。
- 博物館ならではの資料・研究、教育現場との役割は必ずしも一緒ではない。
- 見学だけで終わらないようにする方向がみえた気がします。

聞けて、さらに考えさせられた。
- 博物館の利用の仕方についていろいろ考えることができた。
- これまで博物館に見学に行ってもそこのプログラムを活用させていただくだけでしたが、もっと様々な関わり方があることを知りました。ありがとうございました。
- 上月課長の講演内容が大きなヒントになった。
- 学校と博物館が協力できるよさについてわかったので。
- 上月課長などの先生方の話し方がとても参考になりました。
- 目下の野心が教員の博物館活用をすすめる研修を公的に実現することなので。
- きっかけになったが、実際に実行に移すにはまだまだハードルが高いことがわかった。
- 小学生から自分の身近な地域を学習するのに実際に見学しながら学びに興味をもたせることで、身近な地域社会に対する学習になると思う。
- 学校対応プログラムの再検討中なので、とてもためになりました。（各教科の視点がかいま見られた）
- 地元市（館）でどういった取り組みができるか参考にして実行してみたい。
- 学校と博物館だけだったと最初は思っていましたが、地域社会のことまでは頭になかったので、いいきっかけになりました。
- 以前から興味があったが、多くの方とコミュニケーションをとることの必要性を改めて感じました。
- 中高生を博物館に呼び込むには学校の先生と組むのがよいと思った。
- 博物館と学校のつながりをいかに強めるかという具体的な方策がいくつも発案され参考になった。
- 古川さんのお話はとても面白かったです。社会の先生があれをするなんて。
- 県外の教員と交流する機会が少なかったので、いろいろと意見が聞けて良い機会になった。
- これまでも自館と地域学校との関係についてよりよいあり方を考えてきたが、せまいグループの中では議論に限界があり、こうした機会があることは本当にありがたい。
- 普段から上記の事柄について考えることが多く、関係をどのようにつなげていくかという課題の一助になった。
- 新たな人とのつながりもでき、実際の連携に結び付きそうに思った。
- 地域社会との関係については？です。子どもの知的な好奇心をかきたてるのに博物館はベストです。これを実践するのがむずかしい、それを考えるヒントを得ました。
- 人と人のつながりができ、それがきっかけになると思ったので。
- いま、一番の関心どころです。
- それぞれの館や施設の取り組みや情報交換ができ有意義であった。

●「ふつう」と回答した人の理由
- 関係性についてより博物館でどんな教育テーマができるかをつきつけた感触。
- すでに考えている。
- 地域社会との関係は今回のワークショップは分かりにくい気がした。どの範囲をさすのかを明示し、それを共有し合った上で進めないと難しいかも。
- もともと考えているので、”きっかけ”にはなりませんでした。
- すでに考えていたので、変化なし。
-

●「ならなかった」と回答した人の理由
- あんまり地域をしょった話にはならなかったよね。

④ このワークショップに参加したことで、職場や地域社会において学校と博物館をつなぐための取り組みをしてみようという気になりましたか？



●「とてもなった」と回答した人の理由
- これまでも学校と連携したワークショップなどは開催してきたが、いろいろとメニューを作って学校だけでなく、公民館などにも提案していこうと思った。
- 博物館は、社会教育機関である。しかし、教育現場の実情にうといため対象者の真のサービスとはならないこともあり得る。地域社会との接点を学校を通じて持つ必要がある。
- 元々、いかに学校での授業と関連させた企画を立てるかという課題を持って参加したので、先生たちとの対話を持つ機会を増やしたいと切に思う。
- 今しているものの実施内容、活動内容を深め見なおしていこうと思った。

●「なった」と回答した人の理由
- 児童・生徒に博物館資料を組み合わせて考えさせることに挑戦してみたくなりました。
- 地元の先生方を集め、小規模に（草の根的に）同様のワークショップを実践してみようと思う。
- そのつもりで参加させていただきました。
- 博物館にいくことは難しくても、出前授業をしてもらったり、みんぱっくの貸し出しをしてもらったりは可能な範囲で利用のイメージができたので。
- 現在でも行っているが、色々なアイデアをもらった。
- 私は博物館の職員ですが、学芸員ではありません。博と学のどちらの考えでも立場でもないこ

・ 当センターの地元小学校、中学校に"出前講座"(仮)を考え続けているが今年度こそ(2011・4-)こそ、実施したい。
・ 現在も取り組みを展開中だが、さらにすすめていきたいと思う。
・ これからもまたこのようなワークショップがあれば参加し、勉強していきたいです。
・ うまくいった例などの話をして取り入れたい。
・ もっと実際の行動に結びけたいと考えるばかりでなかなかうまくできていなかったが、他の事例や考え方を知ることができたのは有意義であった。
・ 現在でも、ある程度連携ができていると思うが、現状に甘えず、さらに充実しなければと思う。
・ 地域社会との関係について、上月先生のお話でもう少し取り組んでみようと思った。
・ 現場で実行するためには、今回のワークショップの内容をさらに煮詰めていかなければならない。ほぼ完成した形のパッケージで提供できれば現場での活用の道もひらけてくる。
・ すばらしいものが生まれる可能性があると同時にその難しさも実感した。
・ 実際に視覚で見ることによって、感じることや興味を持つことができるので、教育に関してつなげていくことで、子どもや生徒の興味、関心を引き出す原点になると感じた。
・ 多くの可能性をつぶさないためにも、まずは職場内での取り組みを行ってみたい。
・ 大学生・社会人をボランティアにする方法を考えて行きたい。

とを再確認し、少し違った方向からつないでいければいいなと思いました。
・ 授業や行事で、または出前授業でお互い行き来できれば。
・ 地域をつないでいくのは大切だと思うし、地域コミュニティーを作る上で、各々の施設がつながるのは大切なので、繋がっていきたと思ったが、結局マンパワーに終わってしまうのか、どうかが心配！
・ 学校やボランティア以外とのラインがまだ見えないが、今までアクセスされて動いていた他との関わりの持ち方について、発信型で関わりをどう持つか考えます。
・ とてもと言いたいが、身分不安定のため、継続できるか不安である。
・ 職務上、博学とつなぐ役割を求められている。強い必要性を感じる機会となりました。
・ 以前から思っており、それはかわらない。

●「ふつう」と回答した人の理由
・ すでにそうしていただいているので。
・ すでに取り組んでいる。
・ 参加したことでは普通だが、必要だと思っている。
・ これもとりくんでいるので。
・ 既に努力はしている。

⑤ 今後、どのような博学連携ワークショップをご希望ですか？

・ 今回のようないろいろな団体の方が参加できるものがいいです。
・ 博物館・学校の規模（スケール）の違いによる事例（国立レベル、県立レベル、市町レベル etc）
・ 高校生や大学生を博物館につなぐ。
・ 具体例、実践例の発表が参考になる。
・ これからも教員と博物館の職員とが交流を持てるようなワークショップや情報交換ができる場があるとよい。
・ 他の事例を知りたい。
・ 遠距離校、大規模校との連携（現在は難しい状況）
・ 具体的にそれぞれの教科、単元にそくしたワークショップを一般の人を含めつくる。
・ 今ある展示を遠足などで多数で訪れた子どもたちによりじっくり見てもらい、楽しんでもらうために、展示の場所に工夫をこらしたいと思います。その手法のいろいろを勉強したいです。
・ 今回のように可能性を考えられるもの、またしたいです。
・ 博物館の課題、学校の課題を共有できるような事があれば。
・ 実践型。
・ 博物館と教員が話し合う機会がほしい。
・ 本日のような授業案作成と検討。
・ 小学校、中学校別や教科別などグループワークショップ分けも可能ではないでしょうか。
・ もっともっと学校の先生が参加するべきです。
・ 実際に今回考えたような授業案を体験してみる。
・ 学校から利用可能な博物館での少人数ワークショップ。
・ ここでできえたものを実際にやってみた報告などもあったらよいかもしれない。
・ 具体的なテーマに対する博物館の利用といったワークショップにすると、深いものになると感じた。
・ 活動地域や分野ごとに班になり、実際に実施可能なワークショップ。
・ 二日間の構成にして、今日考えた授業を二日目にやってみたいと思いました。一日というのがもったいない気がしました。(展示物を初めて見たからかもしれませんが、授業を発信する側のワークショップに参加する側としてもう少し教材を知りたい気がします。
・ 参加者からもっと意見がきけたらいいなと思いました。
・ 今回と同じ教員の方々と意見交換できれば。
・ ”子ども”も加わらないとわからないこともあると思います。
・ 今回のワークショップのようなことを継続していくことが、博学連携を密にする礎となると思います。このような手法を継続していくことを希望します。
・ よろしくお願いします。
・ 強く希望する。
・ 大学生にワークショップ゜を行わせたい。

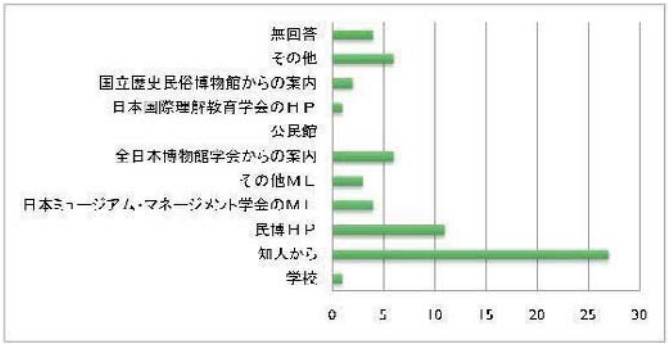
⑥ その他、博学連携ワークショップに参加して気づいたこと、感じたことなどをご自由にお書き下さい。

・ 今まで博物館にあるものだけを見て、なんでもあると思っていましたが、テーマを決めて見ていくと、ないものもあるんだと気付きました(おもしろい！)。
・ まず普通に見て、ワークショップをしながら見
・ やっているうちに時間があっという間に過ぎました。みなさん発想がすごく本当に勉強になりました。
・ 幼稚園、保育園の先生方の参加があればなお幅が広がったのでは？・・・。また、今季参加し

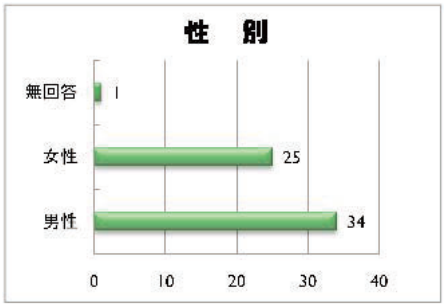
て、またもう一度じっくり各博物館を三度楽しめると思いました。
- 博物館関係者から現場の先生まで、様々な視点から子どもたちのことを考え、意見交換する時間になり、本当に充実した体験だった。
- 民博の研究員が各班に参加すると良かったなあ。
- お題が漠と抽象的だったと思う。多様な意見が出て面白いが時間が足りない。もう少し絞り込んで中身を深めたい。
- 多くの方々と知り合えたことがよかった。
- もう少し休憩時間を効果的に入れた方が、講演への集中が高まるでしょう！
- 関東地域からの参加が少ないのはなぜ？　大阪での開催ということだけではないのですか？山梨、長野にも博物館があるが…千葉の歴博は別ネットワーク？
- 博学連携のワークショップの参加は初めてですが、過去の開催博物館がかわっているのは、いいことだと思います。
- 初めての参加でしたのでどういうものか全くわからなかったので事前に少しでも知っていれば、学芸員の方にお答えできるように教育課題の資料を持ってこれたなあと反省しました。
- しゃべりが苦手な人間にはちと酷か。時間が少ないこともあったかもしれません。
- 良い意味で時間的余裕があるともっと広がり、深まりがうまれたのではないでしょうか？（負担は増しますが、北九州の時のように一泊二日でもと思います）
- 学校のとりくみをもっと知りたいと思った。外からはやはり敷居が高いと感じてしまう。
- プログラムにゆとりがほしい。
- 発表についての交流（質疑応答、コメント）がしたい。
- 講演はもっと実践的な内容のものにしてほしい（ヒドスギマス）
- 私は学校教員ですが、博物館の方のいろいろな考え方を知れて楽しかったです。
- 時間が足りない。
- 今回は学校→博物館という学校が博物館を利用する形態のワークショップが主だったが、博物館が地域に出ていくという形も考えてみたい（出張ワークショップなど）。
- 受付から終了まで、なかなか快適でした。
- 9:30 に着いたのですが入館できず前でしばらくウロウロしました。
- 昼食がとれるならば事前に伝えておいてほしかったです！！！
- 教育的な博物館利用、博学連携についてはとても深められ、有意義だと感じました。しかし地域社会については、見えにくかったです。いろんなテーマ、方向性、内容を詰め込みで少しバラけてしまっている気がしました。
- 教科をこえて交流できるところが、博物館を活用することで生まれてくる。美術館でもそれは言えることだし、広く教科が利用できるように工夫したい。
- 発表ひとつ作るにもさまざまな視点があり、勉強になった。」

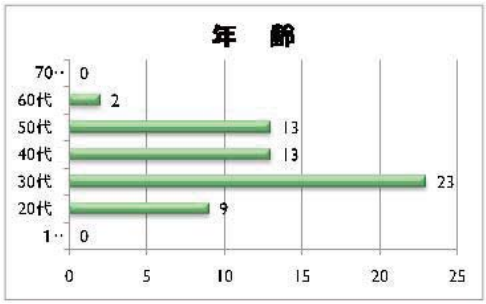
てみて、思ったより博物館の考え方と学校の考え方が近いと感じました。これは興味、理解のある先生方や博物館の方々が多かったからでしょうか？）一方で家庭(保護者)側からの思いとは少し遠いと感じました。講演の形でも参加の形でも保護者側の思いについても聞きたいです。
- 見方を変えると色々とみえてきました。ありがとうございました。
- 事務局の方々に大変感謝いたします。最初に資料の確認をしていただければ、より有意義に時間を使えたような気がします。
- 文部科学省からの講演は本日の WS とあまりにもかけ離れている。時間を本日の発表についての相互討論に使った方が効果的であったと思う。
- 博物館の展示場を見るだけでなく、その後学校での活動と結び付けるには長期的にプランを練らなくてはならないが、校外学習や修学旅行などの機会をもっといかしていけるようがんばりたい。小中高の 12 年間で 3 回、4 回と学校の授業。
- 民博の展示物には説明文がほとんどない。音声ガイドで説明しているのでしょうか？
- やはり話し合いの時間、報告の時間が十分とはいえなかったように思う。
- 今日は本当に楽しく参加させていただきました。
- 様々な視点、考え方を知った。月並みだが色々な人で話し合った方が、一人で考えるより、考えが整理されてよかった。
- こういったワークショップに参加するのは、教員や学芸員と考えていたが、それを支援している団体や企業からの参加もあり、博学だけではなくその周辺とのつながりもすごく感じました。博は情報のセンターだとうちの主任が言っていたことを思い出しました。地域の中にあって、情報やコミュニケーションのやり取りをすることで、地域を活性化する起爆剤になれる役割もあることを改めて気付かされました。
- 現役の先生と一緒にプログラムを作れたのがとても勉強になりました。他の班の人ともう少し交流できたらと思いました。
- 地域、立場、様々な参加者がいて、自分の勉強不足を感じた。実践をこなしていきたい。
- 教員と学芸員の発言がバランスがとれるようにしたらよかった。博物館でしていることなので、どうしても学芸員が有利？な状況ができてしまうと思うのです。
- 学芸員の方と、教員の方の意見や、視点の違いがが大きいことを再認識した。
- もう少しワークショップの時間が欲しかったです。
- アイスブレイクがなかった。
- トイレタイムをください。付箋、クリップボード等道具への気配りがすばらしい。
- ワークショップの主旨がはじめわかりずらかった。

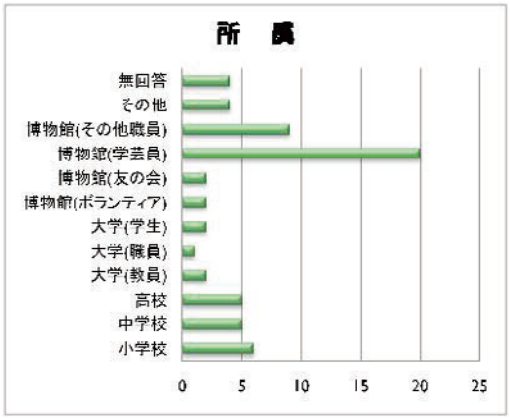
⑦ 今回の博学連携ワークショップのことをどこで知りましたか（複数回答可）。

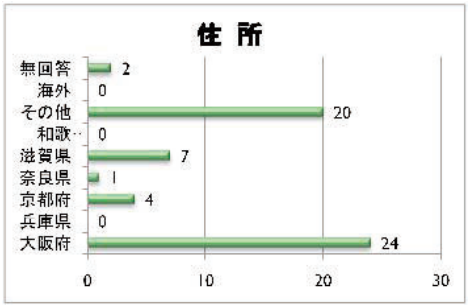


⑧ 最後にあなたについてお聞かせください（「所属」も一番当てはまるものを一つだけチェックしてください）。









※ 「博物館（その他職員）」や「その他」には、ミュージアム・ティーチャー（博物館に勤務する学校教員）も多く含まれるとみられる。

（入力：吉村美恵子）